

研究課題名	バンコマイシン塩酸塩（VCM）とタゾバクタム・ピペラシリン（TAZ/PIPC）併用症例における急性腎障害発生に影響する因子の検討
研究の意義・目的	近年、感染症の重症化や複雑化が進んでおり、また、細菌の薬剤耐性化も問題となっています。重篤な感染症例において、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌治療薬であるVCMと、広域抗菌薬であるTAZ/PIPCの併用は、有用な組み合わせの1つであり、临床上よく使用されます。一方、VCMとTAZ/PIPCの併用療法時には、急性腎障害の発生が増加することが、近年多く報告されています。VCMとTAZ/PIPC併用療法中の急性腎障害の発生は、抗菌薬の変更や、投与量の変更を余儀なくされるため、治療が難渋化する要因の1つとなり、患者様の予後にも影響する可能性があります。そこで、VCMとTAZ/PIPCの併用療法における急性腎障害発生リスク因子を解明し、急性腎障害発生の低減に繋がりたいと考えております。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ 2022年3月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2009年1月～2020年12月に大阪市立大学医学部附属病院で、入院中にVCMとTAZ/PIPCを2日間以上併用の治療を受けた方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：年齢、性別、基礎疾患、感染症名、血清Cr値、VCM血中濃度、抗菌薬投与量、抗菌薬投与期間、先行薬、併用期間、ICU入室の有無、敗血症の有無、腎障害に影響する併用薬の有無、死亡の有無
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院医療の質・安全管理部のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院医療の質・安全管理部のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 研究責任者：川口 博資
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学大医学部附属病院 医療の質・安全管理部 （担当者氏名）川口 博資 電話番号：（06）6645-2771 メールアドレス：hkawaguchi@med.osaka-cu.ac.jp